

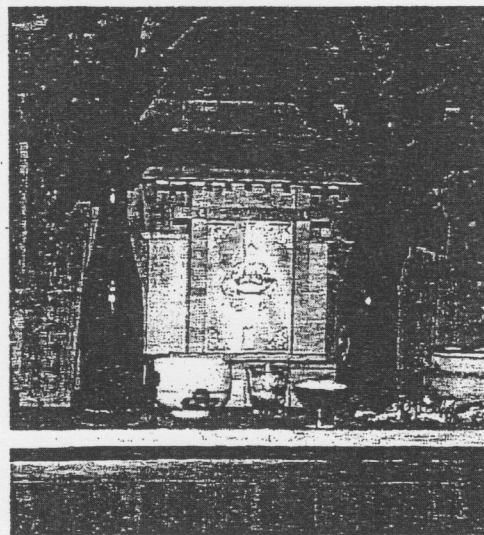
(第3種郵便物認可)

11.12.8

# 土佐の神仏たね歩記

文と写真 市原 麟一郎

第10話



土佐山村の八天狗さま

土佐山村八天狗山の頂上に、「八天狗(はつてんぐ)さま」と呼ばれるお宮があるといわれたので、訪ねて行く事にしました。

網川の集落に前田恒茂さん(天巴)という方がおられ、いろいろと話を伺う事が出来ました。ここには九戸の家があり、正月十日に「八天狗さま」のお祭りをしているとの事です。

ところで祭神はというと、名のとおり天狗さまで、悪魔退治のためにお祀り(まつ)りしたといわれ、昔は山伏たちの信仰のよりどころとなっていました。この地に神として祀られた年代は、はつきりとはわかりませんが、五百年以上の昔からだといわれています。

## 八天狗さま 土佐山村

### 雨乞いに霊験あらたか

「八天狗さま」は、雨乞(こい)いの神さまとして、霊験あらたか知られています。明治三十年代に大旱(か)か、網川の伊東治右衛門という

者が、「八天狗、よう見てみよ。おらんくの田の稲が枯れたぞ。早う雨を降らしてみよ」と、怒鳴りました。すると、神石の割れ目にさしてあった神(さかき)のご幣が、びゅーんと治右衛門めがけて飛んで来ました。これには治右衛門はもちろん、居あわせた地区民一同、その神の力に恐れ入ったということです。やがて、黒雲が空をおおい、あつという間に大雨になったと伝えられています。「八天狗さま」は、女人禁制でした。それは昭和十一年の祭日のこと、女人禁制のことを知りながら、網川の伊東さんとかという五、十歳をすぎた女性が、「もう私は女のやく(生理)もすんだきかまうまい」といって、集落の男たちと山へ登りました。

するとそれまで晴れ渡っていた空が曇って大雨になったそうです。今は神官さんがお祈りをして、女人禁制はとかれていました。それから、今一つ、これは昭和二十一年の南海大地震のあと石の祠(ほこら)が倒れたので、網川から男が四人やってきて持ち上げようとしたが、重くてどうしようも上がりません。そこで神さまにお願いしようという事で、「石を上げさせて下さい」と頼むと、不思議に石は軽々と持ち上がり元のようにする事が出来たそうです。

こんな不思議な話のある「八天狗さま」は、防災無線塔のそばの道を西へ十分ほど行った所にあり、その神域は自然木が生い茂り、樹齢五百年といわれるうばめがしの古木があります。またお堂の右後方には「海のぞき石」と呼ばれる巨大な神の石が鎮座していました。

注・「たねね」は「訪ねる」の方言